

市内で働く女性との“本気”で語ろう会 会議録

団体名	市内で働く女性
日 時	令和6年2月8日（木）18時30分から20時30分まで
場 所	鹿屋市役所3階 ワーキングスペース
参加者	市内で働く女性6名 市長、政策推進課長、政策推進課職員

意見交換

- 1 鹿屋市の魅力
- 2 鹿屋市のここだけは改善してほしいところ
- 3 これからやりたいこと・夢

【参加者からの意見等】

1 鹿屋市の魅力

- 食べ物が美味しい。飲食店が多い。
- こどもから大人まで楽しめるイベントが多い。イベントがショッピングモール代わりになる。
- 人が温かく、親切。都会で暮らしたこともあるが、周りの人に話をしても、人ごとのようだと感じた。鹿屋の人は、力になってくれる。
- 子育て中で、カンパチロウに助けられている。特産品を歌にしているのはいい。
- 海・山・川の自然が魅力。都会は楽しいけど飽きる。1回外へ出ると鹿屋の良さがわかる。小さい時の思い出が大事だと思う。
- 高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」の最後で「大隅大好き」というセリフがあるが、関わった人とのつながりがあってこそ、ここにしかないものになる。
- 鹿屋市の魅力を考えたとき、そんなに悪いところがないから良いところが出てこない。
- 人と人との関わりで地元産品を知るきっかけになっている。知り合いの店で買う・食べることにより拡散につながる。
- 開業資金の支援制度をもっと広めてほしい。知れば頑張れる人が増える。頑張りたいと思っている人はたくさんいる。
- フリーランス・個人事業主に必要なものは「行動力」「やる気」「資金」
- 鹿屋市は子育てがしやすい。病院に行くまで渋滞がないし、必要なものは全部そろう。
- 子育て支援センターが多く、相談しやすい環境があると思う。

2 鹿屋市のここだけは改善してほしいところ

- 営利目的の加工品を作れる場所がない。保健所の許可を取れずに断念する人が多い。
- 個人で活動されていることを知る方法が必要。お年寄りと若者で情報収集のツールが違うので、対象世代に応じた情報発信をしてほしい。
- どこに相談したらいいか分からないときに相談できる場がほしい。

3 これからやりたいこと・夢

- 子どもと関わる仕事をやってみたい。個人事業もやってみたい。
- 音楽活動。音楽をたくさんの人々に知ってもらいたい。
- 子ども達に自分が心から楽しめるものを見つけてほしいと伝えたい。
- 小さなアトリエから小さなハッピーをお客様に届けていきたい。
- 麺を広げていきたい。自宅兼麺教室を作りたい。
- 今の形態のスムージーのお店を増やせば廃棄ロスも減る。
- やりたいことをやっている。イベントの天気が全部晴れてほしい。

【市長】

- 古民家でもいい家は結構売れている。
- 鹿屋ふるさと検定を行う予定だが、鹿屋のことをみんなあまり知らない。
- 大きく宣伝するわけではなく、口コミでも広げられる。
- 実店舗への来店客は少ないようだがECサイトで焼酎セットを販売し、繁盛しているところもある。
- 農業ブランディングは「ミニ（小分け）」「糖度（果物・野菜）」「色」が大事だと聞いた。
- 大企業が1つあり、社会情勢の影響を受けるよりは、個性豊かな個人が頑張っているのもいい。
- マルシェのミニ版のようなものを古民家で開催できればいい。編み物でも麺でもいい。
- 市民の夢の実現を応援する、どういう形でサポートするかが仕事である。
みなさんとつながって、我々が応援することもあると感じた。
- 農業・林業などは組織があるがフリーランスはない。行政はどうしても塊のところの支援になってしまふが、フリーランスの方たちが鹿屋を元気にしてくれると思う。
- ウインドショッピングをするような店並びがない。中心市街地にこだわらず、フリーランスのお店を載せたマップを作つてもいい。
- 行政情報は今後スマホで確認をしていくようになる。スマホを使えるようにしないといけない。
- 中央公民館で行っていた生涯学習講座をリナシティにて開催するようになる。
講座の見直しも行つてはいるが、NISAのことを知りたい人が多いようだ。
- 自分の夢を鹿屋で叶えられればいいが、1回出てみて故郷の良さに気付いてほしい。都会でスキルを磨いた人が、帰つて来られる場所を作らないといけない。
田舎に帰ることを都落ちと言わることもあるが、故郷でもう一旗揚げたい、これまで培つたスキルを田舎のために発揮したいという人もいる。
- 鹿屋市にも加工センターがたくさんある。開業希望者向けに廃止した加工センターや廃校跡、空き家の活用も検討できるかもしれない。
- これから1つの仕事だけという時代ではないかもしれない。いろんな人とコラボしていくことも大切。